

課題 導入部より、物語の背景（時・場・人物・事件設定）を理解する。

☆ 教科書を準備して、導入部の本文をもとに学習を進めていきましょ。プリントは無理に印刷する必要はありません。ノートにまとめる形でまじりますよ。

- 時（いつ）
- 場（どこで）

天宝の末年

唐の玄宗帝の時代。（世界史選択の子はめっちゃ大事な人物です。）開元の治と言われるほど平和な時代を気づいた一方、晩年には「安史の乱」が起こり、（これも大事。）為政者・官僚の腐敗が進んだ時代でもある。また、文学的区分でいうと「盛唐」に分類され、杜甫や李白など後世に名を残すような詩人も登場した。

- 隴西 ↓ 江南 ↓ 隴西の東の地 ↓ 汝水

- 事件設定（どうした）

発狂して闇の中へ駆け出し、行方不明になった。

- 人（どういふ人物が）※内面的な要素も読み取る

問 「李徴」の人物像を読んでみよう。

【例】（こんな感じでまとめてみましょう。）

若くして名を虎榜に連ね ↓ 若い段階で官吏登用試験に合格し、非常に優秀な人物。

性、狷介 ↓ 他人とコミュニケーションを結ぶのが苦手な人物。

俗悪な大官、歯牙にもかけなかった連中 ↓ 自分が最も優秀であると非常に高いプライドを持つ人物。等

自分でまとめたことを参考にしして、李徴の人物像を端的に表現してみよう。授業でも確認します。

＜参考＞ 隴西の李氏 … 一般的には唐の王室と出身を同じへすることを暗示している。元王族であるということが李徴の人格を作るうえでも重要な役割を果たしていることも分かります。（ラジオ講座でもありましたね。）

問 本文中の「賤吏」とは具体的に何について指しているか本文中から抜き出さない。また、なぜ「賤吏に甘んずるを潔しとしなかった」のか、ラジオ講座『日月記』(1)』を参考に書いてみよう。その際、次の書き出しに続けて記述すること。

賤吏＝ 江南尉

理由＝ 人と妥協せず、自らの才能に強い自負心を持っている李徴は、

「**a** エリートとして長安付近の職に就くと思っていたが、**b** 予想に反し江南尉であったため、**c** 李徴の自負心が傷つき、江南尉という職を見下していたため。」

問 本文中に「一地方官吏の職を奉ずることになった」とあるがその理由を二点それぞれ二十字以内で述べなれ。

・	妻子の生活を支える必要があったため。
・	自分の詩業に半ば絶望したため。